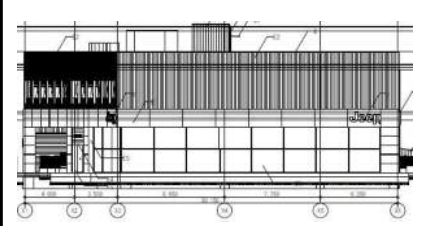


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Jeep名古屋中央 新築工事	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市中川区太平通3丁目3-4宮脇町1丁目45-1 45-2 46-91	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	15人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年5月8日
敷地面積	1,538 m ²	作成者	
建築面積	1,221 m ²	確認日	2023年5月8日
延床面積	2,372 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記②以外のオンサイト手法 94%
④上記+オフサイト手法 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
利用者の方が心理的に快適で心地よく過ごせるようにするためにできる限り緑化に配慮し、明るくゆとりある室内外の環境に加えて、自動車の駐車や移動スペースを確保して地域環境の負荷にも配慮した。		
Q1 室内環境 大きな窓を設けることで日中に太陽光を感じられ日中でも明るく過ごすことができるよう配慮した。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースを設けたり広さ感をよくすることで心理的に心地よい空間へ配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 舗装計画があるとしても緑地をなるべくとり、基準値程度の配慮した。
LR1 エネルギー 断熱性能に配慮した仕様とすることで建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まず分別可能な建材を出来るかぎり使用する配慮した。	LR3 敷地外環境 高効率な設備等を採用することでライフサイクルCO ₂ 排出率を抑え地球温暖化に配慮した。十分な台数の駐車、駐輪スペースを確保することで地域の交通負荷抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

Jeep名古屋中央 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.106964985	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.010696499
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.053482493	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。